

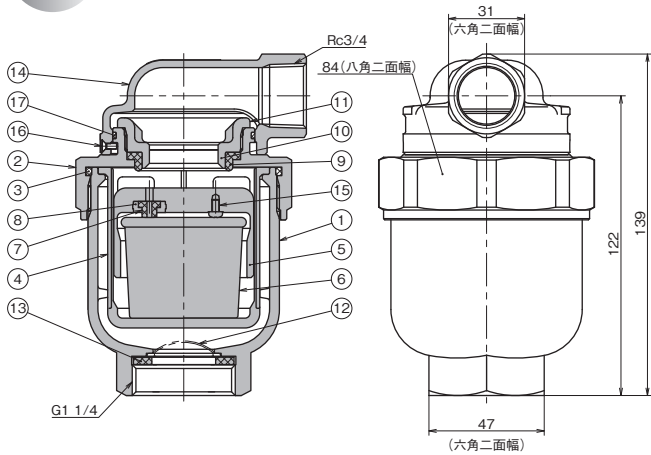


吸排気弁 NAV-ODCII 25

取85 取付け・取扱い説明書

ご使用の前にこの説明書をよくお読みください。

構造



■ 主要部品表

品番	部 品 名	材 質
1	本 体	CAC911
2	ボンネット	CAC911
3	Oリング	NBR
4	バケット	POM
5	遊動弁体	PP
6	フロート弁体	NBR+フェノール樹脂
7	小空気孔パッキン	NBR
8	小空気孔パッキン押え	PP
9	大空気孔パッキン	NBR
10	大空気孔パッキン押え	CAC406C又は鉛レス青銅連講棒
11	キャップ	CAC406又はCAC911
12	ストレーナ	SUS304
13	パッキン	NBR
14	外部排水用カバー	CAC406又はCAC911
15	樹脂ビス	PC
16	十字穴付皿小ねじ	SUS304
17	Oリング	NBR

仕様

- 使用流体…水道水（常温）
- 使用圧力…0.05~1.0MPa
- 耐 圧…1.75MPa

⚠ 注意

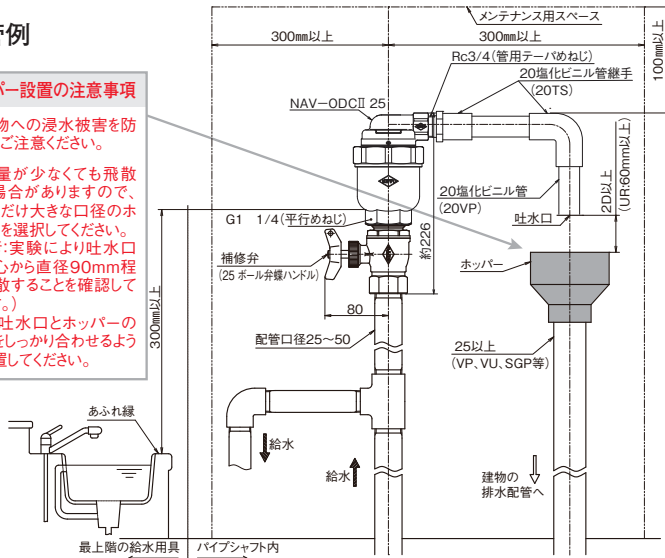
- 仕様の範囲でご使用ください。吸排気以外の目的、水撃対策や使用圧力範囲外等での使用は、漏水や故障の原因となりますのでおやめください。

取付け・取扱い上のご注意

配管例

ホッパー設置の注意事項

★建物への浸水被害を防ぐためご注意ください。
排水量が少なくても飛散する場合がありますので、できるだけ大きな口径のホッパーを選択してください。（参考：実験により吐水口の中心から直径90mm程度飛散することを確認しています。）
また、吐水口とホッパーの中心をしっかりと合わせるように設置してください。



機能・性能

- 多量排気機能
- 自動空気抜き機能
- 急速多量吸気性能

立て管口径毎の必要吸気量

立て管口径 (mm)	必要吸気量 (ℓ/min)	
	※1 名古屋市他及び都市機構の基準	東京都の基準
20	90	90
25	150	150
30	240	210
40	420	330
50	840	540
75	2004 ^{※2}	930
100	—	1500
150	—	3400

吸気量 **960 ℓ/min**

- ・吸気量は弁差圧 2.9kPa 時の値です。
- ・各水道事業者の基準を確認していただく。

※1 必要吸気量規定のある水道事業者。札幌市、横浜市、新潟市、名古屋市、京都市、堺市。
※2 名古屋市の基準。堺市 930 ℓ/min。

- 吸排気弁は維持管理を要する器具です。パイプシャフト内に設置の際は、器具に容易に手が届く十分なメンテナンス用スペースを必ず確保してください。また、建物の外壁に沿った配管等へ設置する際には、安全に維持管理ができる様配慮してください。
- ねじ部は鋭利なため、直接素手で握らないように注意して扱ってください。また、取付け作業は、手袋等をして行ってください。
- 取付け前に必ず洗管し、ごみ等の異物を十分に排出してください。
- 取付け姿勢は鉛直とし、2°以上傾かないようにしてください。傾きが大きいと動作が緩慢になったり、排気量が少なくなる等の支障をきたす場合があります。
- 給水器具や水受け容器のあふれ縁より300mm以上、上方に設置してください。（配管例を参照）
- 配管の際には適切な支持及び固定を行ってください。また、故障時等の出水による被害を防ぐため、必ず上記配管例を参照の上、建物の排水配管へ接続してください。吐水口空間を設けず直接排水配管へ接続しますと、汚水の吸い込みや、吸気機能が損なわれるおそれがあります。
- テーパーねじはシールテープ等のシール剤を使用し、確実にねじ込んでください。
- ボール止水栓や仕切弁等、開閉の容易なハンドル付補修弁（玉形弁など、内径が絞られている弁は不可）を必ず取付け、ゆっくり開閉し、全開で使用してください。中間開度での使用はおやめください。
- ボール止水栓や仕切弁等の補修弁を開いて吸排気弁に充水する際、充水速度が大きい場合、多量のエアを巻き込みながら充水される場合、あるいは一時的な異常低圧が生じた場合等には排水することがあります。
- 凍結が予想される場合は、保温等凍結防止策を講じてください。この時、吐水口空間を塞がないでください。
- 解氷作業等による直火での加熱は、漏水の原因となりますのでおやめください。



素敵な創造～人へ・未来へ

株式会社 日邦バルブ

保守・点検

●吐水口で排水が認められる場合、次の手順で分解し、ごみ等の異物を除去して弁内部の点検を行ってください。

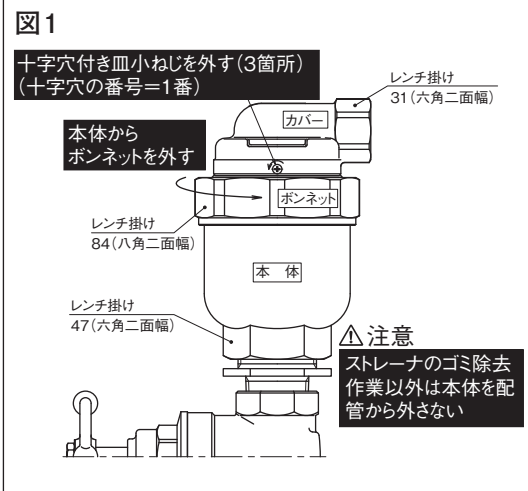
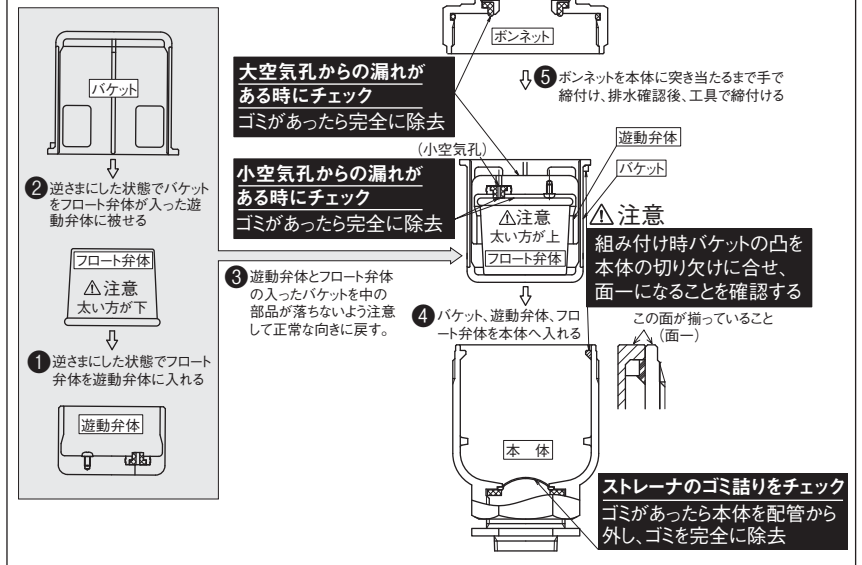


図2 組付け手順(①~⑥)



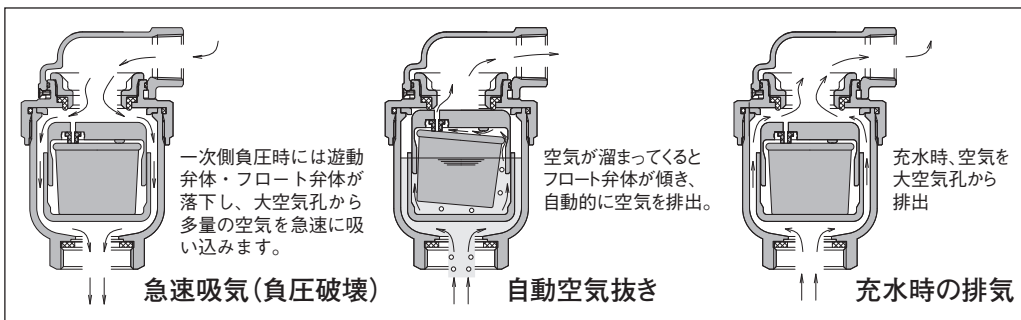
分解・清掃の手順

- 補修弁を閉める。
- 図1に従ってカバーを外す。
- 補修弁をわずかに開け、器具のどこから漏れているか確認。
- 本体は配管から外さず、図1のレンチ掛け部にレンチ等を掛け、ボンネットを本体に対して左に回して外す。
- ③で、
・小空気孔から排水の場合
→図2「小空気孔からの漏れがある時にチェック」箇所を清掃。
・大空気孔から排水の場合
→図2「大空気孔からの漏れがある時にチェック」箇所を清掃。
- ストレーナにゴミ詰りがあった場合
→本体を配管から外し、「ストレーナのゴミ詰りチェック」箇所を清掃。

- 組付け *手順は図2参照
部品を元通りに組付け、ボンネットを本体に突き当たるまで手締め。
- 補修弁をゆっくり開け、器具に充水し、排水の有無を確認。
排水有り → 再度弁座を確認。
※排水が止まらない → 部品交換を要します。
排水無し → ボンネットを工具で締め付ける。
(締めトルク:30N・m)
カバーを取付けて完了。

※器具の弁座を清掃し止水確認後、数日してまた排水が起こる場合、止水に影響を与える大きさの異物が給水立管内に存在している可能性があります。(新設時や改修時、近隣の水道工事、受水槽清掃後に異物が給水立管内に流入する等)立管頂部から排水をする等して、異物を排出してください。

作動説明



オプション品

- 空気弁用ボール弁
BS-AIR 13 (R3/4) ・20 (R1) ・25 (R1 1/4)
- 空気弁用内ねじボール弁
BSI-AIR (管端コア付き) 25 (Rc1)
- 仕切弁 B-WGI 25 (Rc1)
+Gユニオン本体 25 (R1)
- 仕切弁 B-WGI 20 (Rc3/4)
+Gユニオン本体 25×20 (R3/4)

素敵な創造 ~人へ・未来へ

株式会社 日邦バルブ
NIPPO VALVE

本社・松本工場 〒399-8750 松本市笹賀3046
北海道工場 〒059-1362 苫小牧市柏原6-120
<http://www.nippov.co.jp/>

お問い合わせ先

東京	TEL.03-5338-2231	松本	TEL.0263-50-5221
札幌	TEL.011-232-0471	名古屋	TEL.052-735-6511
仙台	TEL.022-213-3177	大阪	TEL.06-6354-1057
北関東	TEL.0283-22-7547	広島	TEL.082-232-8117
神奈川	TEL.042-741-7121	福岡	TEL.092-472-5128

ISO 9001・14001 認証取得